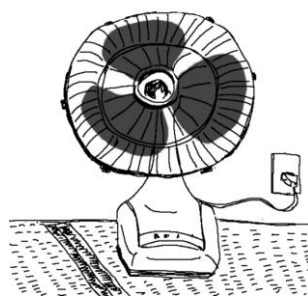


八月のテーマ

金銭は生きもの



え・古屋智子

足の生えた 1万円札

新

聞販売所を営むA婦人が、倫理研究所の研究員に倫理

指導を受けました。内容は、婦人が一万円札を落としてしまったことについてでした。

A婦人は、お札を四つに折り曲げて、直接ズボンのポケットに入れていたそうです。婦人の話を聞いた研究員は、金銭や物に対する倫理を説明しました。

「純粹倫理では『物は生きている』と捉えます。特に金銭は、物の中でも、最も敏感な生き物です。お札をポケットに裸で入れていること自体、無造作に扱っている証拠でしょう。金銭をはじめ、物は生きていますから、自分の子供を慈しむように大切にしなければなりません。あなたが金銭を粗末に扱っているから、一万円というわが子が、ここにいたくない』と思つて、あなたから逃げていったのですよ」

続けて研究員は尋ねました。「ところで、自宅の台所の流し台の一番上の引き出しには何が入っていますか」

「…はつきりとわかりません」
「恐らくそうでしょう。台所は

日々の生活を営む上で、家族の命を支える大切な場所です。その台所の引き出しに何が入っているかわからないとすれば、お店や自宅にある物も、あまり整理されていないのかもしれない。物に対する心構えを反省して、今日からすべての物に感謝し、わが子のように愛し、慈しんでください」

指導を受け、(本当にその通りだ)と痛感したA婦人。家に帰るとすぐに、流し台の引き出しを開けて中を確かめてみました。すると、使いかけの調味料や買い置きをしていた台所用品の下から、一円玉や五円玉、十円玉が何枚も出てきたのです。

引き出しの中の小銭を拾い集めながら、A婦人は、(こんな状態だから一万円札もなくなつたんだ)と、物を乱雑に扱っていたことを心の底から反省しました。そして、(今日から家と店の中を一日一カ所整理しよう。お世話になっていく多くの物に対して、ありがとう

という感謝の気持ちで使つていく)と誓つたのです。

その日の夕方、A婦人に驚くべきことが起こりました。交番から連絡があり、一万円札の落とし物が届けられたというのです。

実はA婦人、倫理指導を受ける前に、交番にお金を落としたことを届けていたのです。交番に届けられたのは、紛れもなくA婦人が落とした四つ折のお札でした。

お金は、足が生えているように行ったり来たりすることから、昔から「足」にたとえられます。足に接頭語の「お」が付いて「お足」という女房詞もあります。

粗末に扱うと、それこそ足が生えたように逃げていくのが金銭の性質です。また、物に対する心を改め、実践に移したことから、(そろそろ帰ろうか)とお金に足が生えて、婦人の元に戻ってきたのかもしれません。

この体験から、お金の扱い方が変わったA婦人です。引き出しの中や店内も整理整頓され、仕事もぐんと捗るようになりました。